3階東・地域包括ケア病棟の現状と未来

松　崎　八重子

キーワード：ポストアキュート；在宅復帰支援；看取り

（雲南市立病院医学雑誌　2019; 16(1): 58-59）

はじめに

地域包括ケア病棟は、平成26年の診療報酬改定で新設され、当院でも同年９月より、内科病棟からの転換となった。開設当初は、旧棟４階西病棟で感染症病床２床を含む43床であった。その後、平成30年３月、新本館棟移転で現在の３階東病棟・感染症病床２床を含む48床となった（**図１**、**図２**）。

当病棟の平成30年度の平均在院日数は30.7日、病床利用率は89.5%、在宅復帰率は、88.8%となっている。また、平成30年度入院患者の主病名（中分類）として多いのは、①腸のその他疾患（大腸ポーリープ）、②腰椎及び骨盤骨折、③肋骨、胸骨及び胸椎骨折、④固形物及び液状物による肺臓炎（誤嚥生肺炎）、⑤大腿骨骨折、⑥細菌性肺炎、他分類されないもの、となっている。

病棟業務

人員配置基準に、在宅復帰支援担当者（専従）、リハビリテーションスタッフ（専任、１名以上）が要件となっているが、これは、患者が住み慣れた自宅や地域に早期に安心して退院できるよう、多職種協働で効率的に退院支援を行うためのものである。当病棟では、毎日多職種で患者カンファレンスを行っており、リハビリテーションからは単に身体機能向上だけではなく、退院後の日常生活を見据えた提案、看護補助者からもケアの中で得た情報提供などから、個々の患者の現状と課題、方向性情報共有している。また、地域のケアマネージャーからの医療介護連携シートで入院前の情報提供があり、退院後の生活を早期にイメージしゴール設定に役立っており、退院前には、積極的にケース会議を行い連携強化している。

地域包括ケア病棟の主な役割として①「サブアキュート：在宅や介護施設で療養している患者の急性増悪を受け入れる」、②「ポストアキュート：急性期治療を終えた患者の継続的治療やリハビリテーションを中心に行う」、③「在宅復帰支援」、④「看取り」の４つが上げられる。当院では、現在②～④が主な機能となっており、当院急性期病棟からの転棟患者が大半を占めている。急性期治療を終え状態が安定しているとは言え、高齢者が多く急変するケースも多いため、多方面の知識や技術、また、退院後の生活まで視野に入れ、疾患だけではなく全人的に捉えていく力も必要とされる。①については、現時点では多くないが、在宅介護中で呼吸器使用など医療処置のある患者家族の介護負担軽減目的の一時入院（レスパイト）の受け入れ、介護施設などからの直接入院、また、手術件数も最近は増加している。

今後の課題

ますます高齢化が進むこの雲南地域で、住民が安心して住み慣れた自宅や地域で生活できるよう、国が推進している「地域包括ケアシステム～時々入院、ほぼ在宅（施設）」において当病棟は介護福祉分野と医療分野の連携強化において重要な役割があると考えられる。今後の課題としては、更に連携を強化し、退院支援を充実することと、積極的にサブアキュートの機能も果たしていく必要があると考える。

雲南市立病院看護部３階東病棟看護科
著者連絡先：松崎八重子　雲南市立病院看護部看護科〔〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1〕
E-mail: kangobu@hotaru.yoitoko.jp

図１　移転前旧棟各病棟廊下の風景

図２　移転前旧棟各病棟の特室：
キッチン付きではあったが簡素な部屋

Present status and future perspective of the nursing care unit on the east third floor ward in Unnan City Hospital.

Yaeko Matsuzaki

Nursing care unit on the east third floor ward, Department of nursing care, Unnan City Hospital
Correspondence: Yaeko Matsuzaki, Department of nursing care, Unnan City Hospital〔96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN〕
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501
E-mail: kangobu@hotaru.yoitoko.jp